【令和５年度第１回企画展】

# 後藤新平旧宅 ～18世紀中期から現代まで～

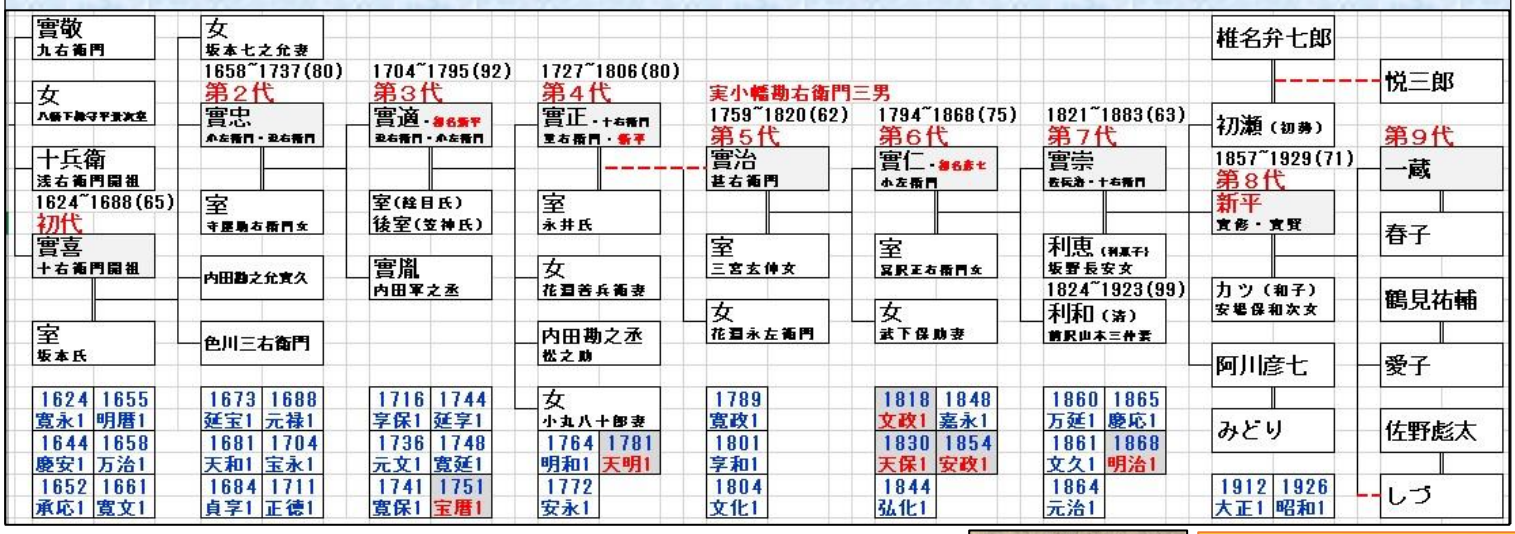
昨年11月から今年の3月末まで、倒壊の恐れのあった冠木門の修理や歴史を重ねて見えなくなった襖の表装修繕等を行いました。衣替えになったこの機会に、築250年は経たであろう後藤新平旧宅の歴史の変遷を紹介します。

## 【後藤家家系図（後藤惣助別家）】

親類可判の間柄（藩に提出する書類には必ずお互いの判をとらねばならない関係）であった内田家（現在：武家住宅資料館）子孫、内田紹男氏著『水沢歴史研究後藤新平家の歴史』からまとめたものが下図である。

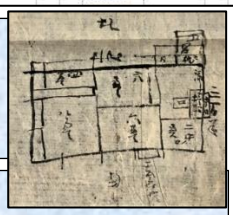
なお、「後藤氏系譜」の中で、「實喜」が後藤新平家の「初代」となった経緯が次のように記載されている。

「實喜　仕于宗直君　宗景君　別賜於食禄、是故實房所賜之屋敷三分與其一、為別家」

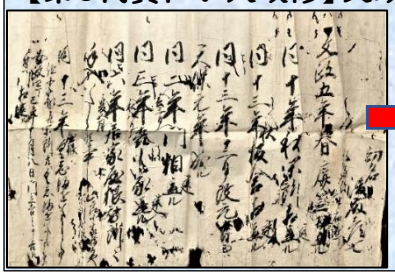


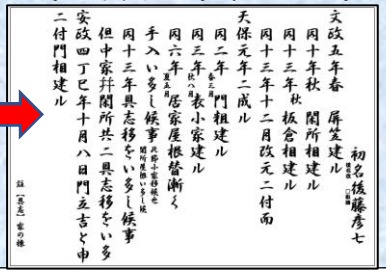

## 【第4代實正が建築】宝暦年間（1751年～1764年）

「後藤新平伯伝記編纂会」によると、右の古文書が、宝暦年間の資料であると推測している。とすれば、現在の建物の建築は、18世紀中期となる。



## 【第6代實仁が大改修】文政5年～安政4年（1822年～1857年）





文政五年春　屏笠建ル
同十年秋　閑所相建ル
同十三年秋　板倉相建ル
同十三年十二月改元二付而
天保元年二成ル
同二年　門相建ル
同三年　表小家建ル
同六年　居家屋根替漸く
手入い多し候事
同十三年異志移をい多し候事
但中家并閑所共二異志移をい多
安政四丁巳年十月八日門五吉と申
二付門相建ル

初名後藤彦七

注（五吉）雷の様

初名後藤彦七は、新平の祖父實仁である。この實仁が塀笠や閑所、板倉、門、表小屋、そして祖父實正の建てた居家の屋根の葺き替えを漸く終え、一連の建設終了に安堵している様子が窺える。

## 【第9代一蔵が大改修】昭和10年～11年（1935年～1936年）

新平の長男一蔵が、昭和10年の第一期で、門構え・外廓・庭園・溝渠等外部の方面を、昭和11年の第二期で、本屋・板倉等の保存・修理等、専ら内部の方面の修理を行った。

【工事前】

【工事後】

令和五年度　第一回企画展

# 後藤新平旧宅

～十八世紀中期から現代まで～

【併催】シリーズ後藤新平人脈考⑩

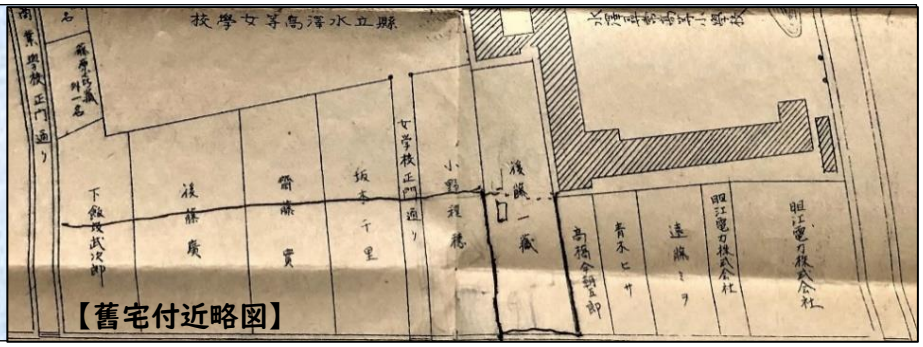
高野　長英

【期間】令和5年4月21日(金)～6月18日(日)

奥州市立後藤新平記念館

## 【敷地半減】昭和42年5月（1967年）

昭和41年9月、水沢小学校が現在の堀ノ内に移転。その後、昭和42年5月、水沢地区合同庁舎（現在の岩手県奥州地区合同庁舎）が竣工。この時、後藤家の北側の畑等の敷地が合同庁舎の敷地となった。（図面は編纂会収集時のもので、横の線引きは現代のものか。）



【舊宅付近略図】